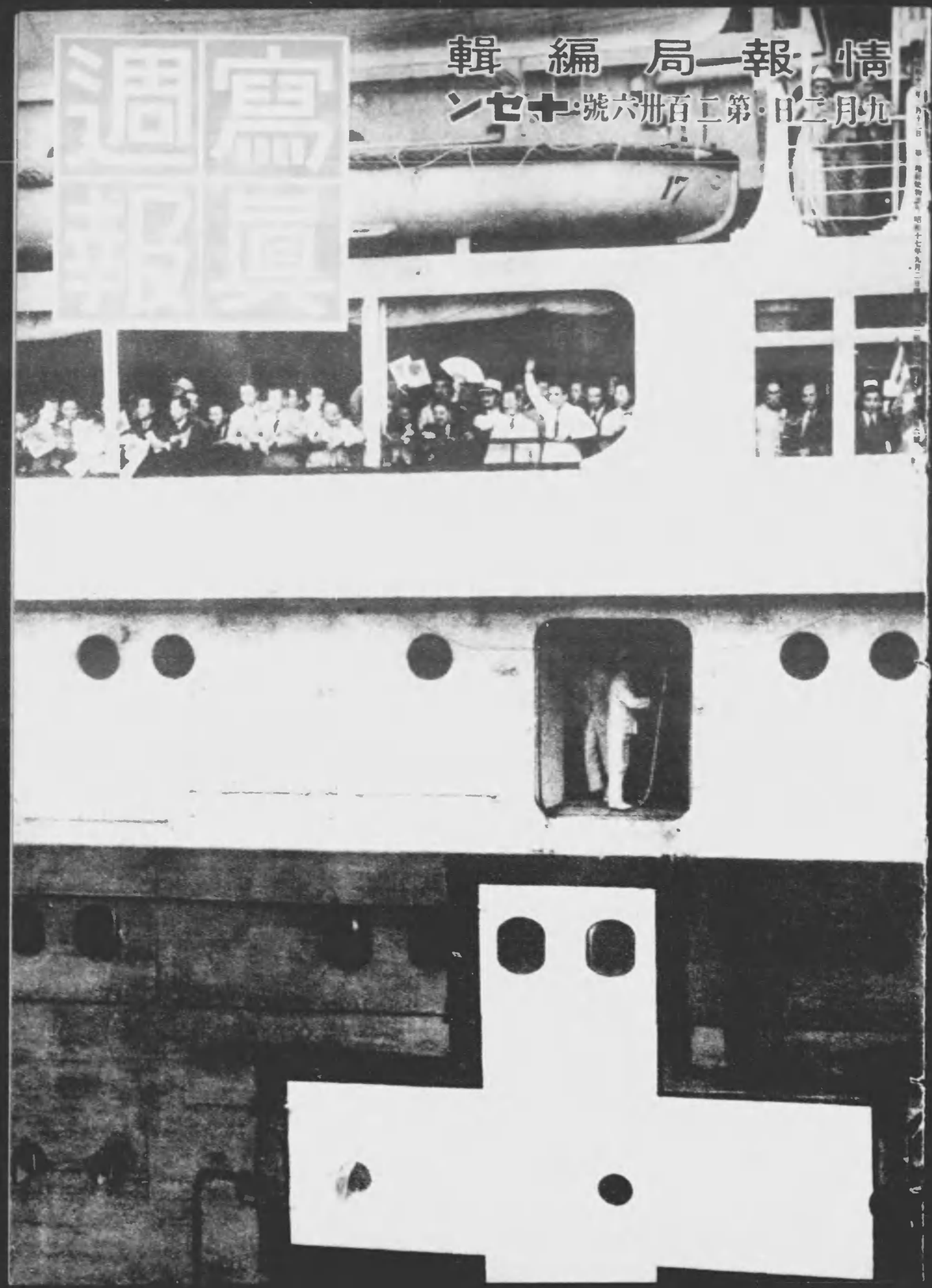
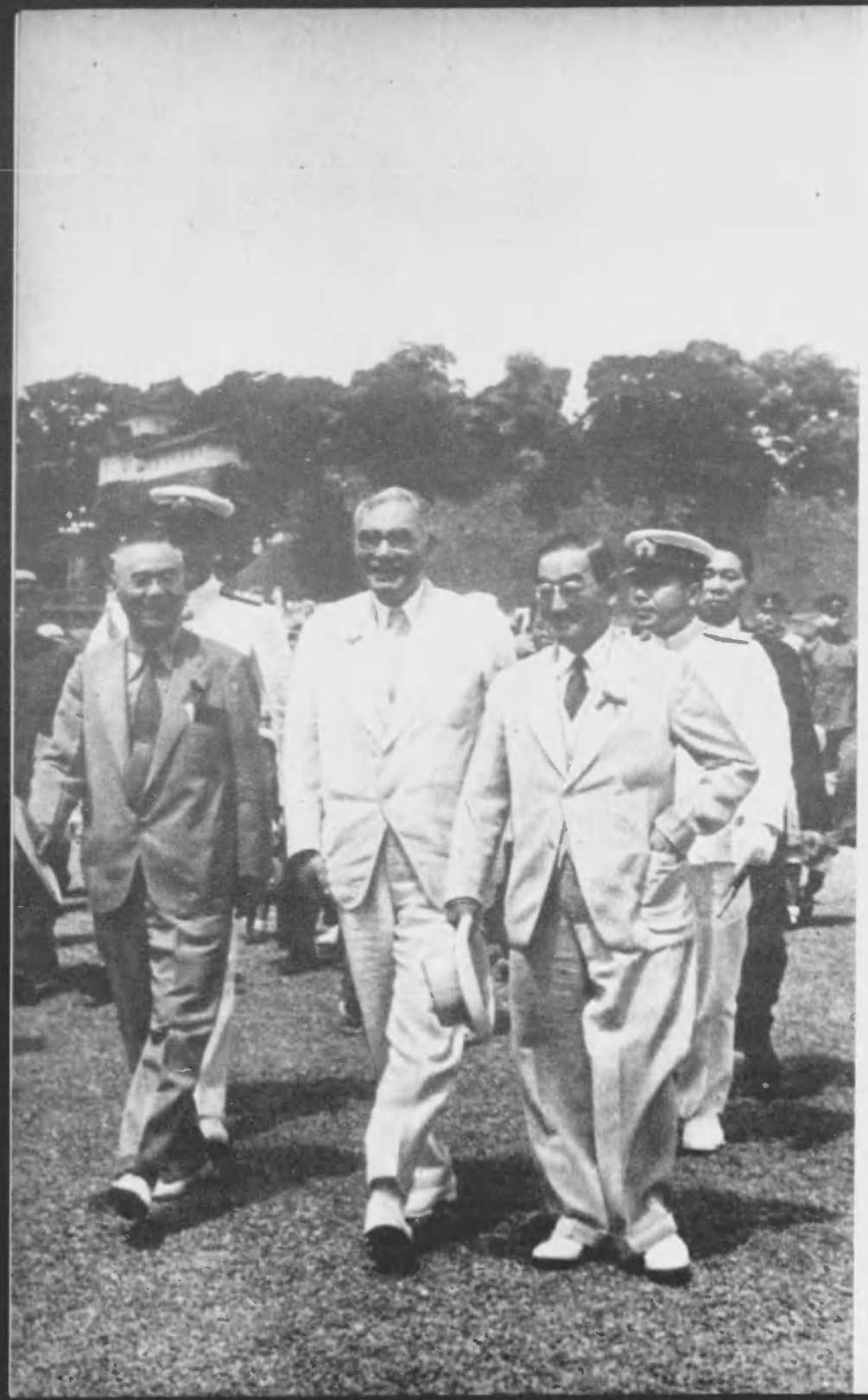
情報局編輯
九月三日第三百卅六號 セン

寫眞週報



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

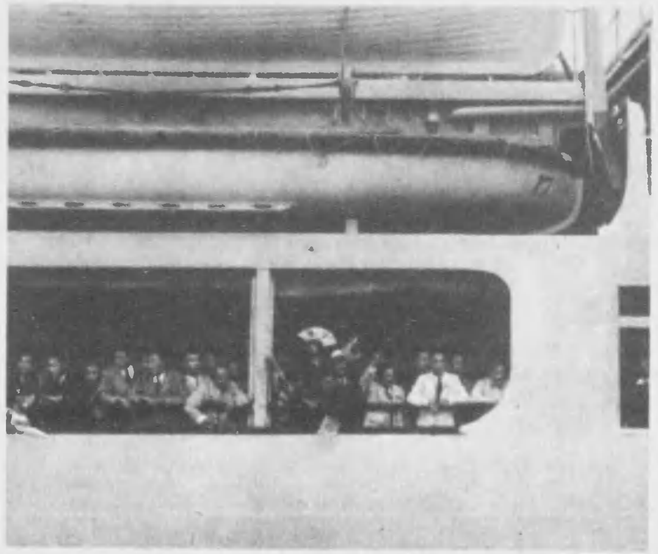
事變前までの社會が
なんとそらぞらしく目に映ることか
『古い』の一語で片づけてしまはう
この一語にふくまれたあらゆる過去の生活形態
試みにそんなものを麗々しく取り上げた
小說や映畫や演劇は
その生活の殘骸のむなしさに呆れかへるばかり
吾等今日のこの眞實の生活を生き拔かう



偉なる祖國懷しの母國
米洲から交換船で歸つた人々

橫濱に內地への第一ルを印した野村、來栖、石射三大使は直ちに車を驅つて宮城前に至り、瑞氣みなぎる大內山の大奧に敬虔な最敬禮を捧げて何かをつぶやいた三大使は喜びを包みきれず、玉砂利を踏む足取りも輕い

⇨白十字もくっきりと描き入港した浅間丸



四艘浮標に繋付けした浅間丸 引揚げの人達は感激の手を振り、旗を振つてゐる ⇨

引揚げの人達は、まのあたり見る故国の逞しい姿に、昔とは大変違つてはゐるが、想像してゐたより平静な姿に驚異の目をみはりながら、身寄りへ急ぐ ⇨

⇦歓迎下、相擁してゐた肉身の愛情は、相見た瞬間、言葉もなく固く〳〵、結ばれた

偉なる祖國懐しの母國

米洲から交換船で歸つた人々

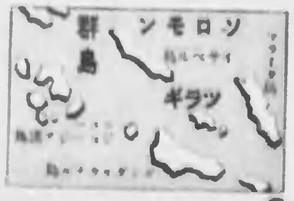
日米交換船浅間丸及びコンテ・ヴェルデ號は野村、来栖、石射三大使はじめ北米、中・南米のわが外交官、一般引揚げ邦人の千四百余名を乗せて九月二十日早朝、横濱港に入港、懐しの故国に無事その使命を果した

この朝、グリップスホルム號でニューヨークをたつて以来、リオデジャネイロ、ロレンソ・マルケス、明南島と白十字の標識一つを頼りにしつつの海を越えて来た引揚げの人達は、船が桟橋に着くや二ケ月に渡る船旅の疲れも忘れ、甲板にギッシリ並んで、桟橋に出迎への親族や友人などに向つて手を振るもの、鼻をすするもの、ハンケチを噛みしめるものなど何れも目に一ぱいの涙をたゝへてゐた

それは敵國アメリカをはじめ南北南米大陸からはるゝ〳〵懐しの祖國、戦勝に輝く日本に帰り得た感激の涙であつた

「娘は何處へ、どこにゐるのだらう…」一刻も早く愛娘を見ようとあせる母は、息子の手に抱かれて小手をかざす ⇨

戰ぎ海ンモロソ
襲奇の夜暗す撃相々艇



原本不明瞭

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

田中新比島方面陸軍最高指揮官着任す

最近本比軍を撃滅して全比島鎮定の偉業をなしとげた本間雅晴中將の後任として、今回比島方面陸軍最高指揮官に親補された田中静壹中將は、八月四日空路マニラに着任、同日軍司令官官邸に本間中將を訪問して一時間半にわたる所管事項の引継を終へ、翌五日軍司令部に初登庁をした。田中新最高指揮官は人も知る青年將校で、且つは駐伯大使阿部武官などの經歷をもつアメリカ通でもあるので、比島再建の重要役としては、これ以上の適任者はないといふべき、今後の手腕が期待される

日本開闢以来の最高指揮官たるの重任を悟した官民多數の見送りのうちに、六日空路惹たつ

（編輯　陸軍報道部）

⇧マニラ飛行場に到着の田中新軍司令官は軍官民多數の盛大な出迎へをうけた（左端）

⇦前記に続き新軍司令官田中新司令官（右）と本間前司令官（左）

⇦前列の人々に別れの挨拶して離壇の途につく本間中將

マレーの俘虜

陸軍上等兵　竹森一男　作

彼等は黄褐色の開襟上衣を着し、半ズボンの腰から下を裸にむき出し、短靴を穿いてゐた。頭には縁の廣い麥藁帽子や、赤い房のついたトルコ帽や、或ひは黄色い無縁帽を少し横に傾けてかぶつてゐた。中には長髪を頭上で束ね、その上にターバンを巻きつけてゐる兵隊もあつた。みな陽に灼けて褐色の皮膚をして眼ばかりぎよろ〳〵光らしてゐた。常は黄色だつた。三列になつて隊伍を組んで來たインド兵は、緑色のズボンを穿いた指揮者の號令に隨つて道路上に停止した。そして左向けをして兵站廠場の芝生に面したとき、一齊にそろつて右足を擧げ左足を蹴るやうにして不動の姿勢に返つた。タン！靴が小氣味よく鳴つた。と、彼等は休めの號令によつて兩足を開き、兩手を組んで腰に廻した。更に『腰を下ろせ』で合歡木の並木の下に腰を下ろした

頭を丸がりにして、五、六本の毛を殘してゐるネパール兵は、背も低く、ずんぐりとしてゐて、日本人によく似てゐた。頭にターバンを巻いた兵隊はすべて頑髪を著へ逞しい體格のものが多かつた。他の兵隊は黄褐色の皮膚をしてゐたが、骨格も、眼付も白色人種を思はせた

『あのビロードの無縁帽はインド人の大將なんだ。中隊全部ひきつれて投降して來たらしいね』

二人が目をならべたとき、大泉軍曹は眞直ぐ前方を眺めながら、優しい打とけた調子で云つた。そして更に言葉を續けて

『白人のために、何故日本を敵にしなければならぬのか、と考へたらしいんだな。尤も兵隊といふ商賣はしてゐるが、戰爭をしようとは夢にも考へてゐない連中なんだから、この民族的な大戰爭の前線に立てるとは、第國も大きな誤算をしてゐたわけだな。大將は進んで投降して來たらしいが、話によると英人の督戰だけは勇猛果敢だつたらしいや……』

と云つて大泉軍曹は大笑した

『本當は　インド兵はこの方がよかつたんですね』

と溝口は我がことのやうにインド兵の平安な姿を喜びながらいつた

『全くだ。……しかしインド人つて實に單純で善良でね。みんな平常になつたことを喜んでゐるんだから愉快だね』と大泉軍曹はちらりと彼等の方を振返りながらいつた

彼等は　最初投降したとき　まだ日本軍の算意が分り兼ねたので、どのやうに待遇されるものか、誰一人自信を持つてゐるものはなかつた。指揮者の大將を信じ、督戰隊の英軍に殺されるよりは、日本軍に身を委す方が、危險の率が少いと思はれたのだ。白人がインド兵を前面に出したといふことと、日本軍があまりに強かつたことがインド兵の行爲を決定したのだ。また彼等が英軍となつて、アングロサクソンのために日本軍と戰ふのだと反省したとき、未だかつて感じたことのない矛盾に氣付いたのも事實である。その後が、どうならうと、彼等にとつて、投降の命令は一つの救ひであつた。投降するや、一切の恐怖が去つた。それゆゑ、英國の搾取的な束縛から脱して、祭ての敵とは思はれない親しみのある日本の兵隊の顔を見たとき、また、大將を通じて傳達された、皆天の『露』ともいふべき日本軍の投降インド人に對する意圖を知つたとき、彼等の更生の歓びは極點に達した。よくは分らなかつたが、『東洋人はお互に手を握り合つて白人の搾取から自由にならねばならぬ。インド人と日本人は提携して東亞の幸福を築かねばならぬ。お前等は敵ではない。大きな使命のために、お互に協力してやらうではないか。インド獨立のために日本は身をもつて協力しようとしてゐるのだ』といふ意味を呑み込むことが出來た

俘虜の運命が一轉して、東亞解放の協力者となつた。自分達の命が救はれたばかりでなく、日本の友となりえたのだ。――唯だけではなく實際の眼で、日本軍進撃のすさまじさを目撃し、その嚴正な軍紀を知つたとき、彼等の畏怖と崇敬は本能的に驚歎の中からたかまつていつた。しかも溫良な俘虜兵に對する日本軍の取扱に目んじつつ蘇生の熱涙が新らしい献身的な情熱を呼びさました。更に大將からインド獨立の檄會を語られたとき、彼等の裡に眠つてゐた民族の血が目醒め、愛國の至情が胸にあふれてくるのを感じた。毎朝、兵站の指令で各方面の使役に服してゐるのだつたが、一桶の荷物を擔ぎ、一罐の石油ドラム罐を運搬しても、彼等は東亞解放の意義を感じ、インド獨立の夢を描くやうになつてゐたのである

二人は黄白い細長い建物の門をはいつていつた。そこには三人の兵隊が白人俘虜のために食事の用意をしてゐた。廚房の中で飯盒の飯を蓋に移してゐた兵隊は、大泉軍曹の姿を見ると、恭々しく敬禮し、にこやかに眼に灼けた顔を綻ばした。大泉軍曹はそれを眺きこみ

『御苦勞さん』と云ひ、更に

『君達、いやにめしが遅いんだな』と云つた

『いゝえ、これは英人俘虜の分ですよ。どうも奴さん、米のめしと梅干にはさすがに參つてゐるらしいです』

兵隊は盤の中から赤いよく漬かつた梅干を取り出しながら云つた

『ほゝう、やつぱり困つてゐるかね。尤も俘虜に贅澤な御馳走を作つてゐるひまもなからうからね。ハ、ハ、ハ。だが、考へてみると、この日本料理には參るだらうさ』

『腹が空くから米は食ひますね。ところが味噌汁や梅干は非常に苦手らしいです。ぽつ〳〵食べ始めたものもありますが、大抵は殘しますよ。しきりに砂糖を要求します。可哀相なので自分の懐中をはたいて白砂糖を買つて與へたのですが、非常に喜んで、サンキューの連發です。しかし國々しいのにもあきれて了ひましたよ』

『なるほどね……では中を巡察してみよ

大泉軍曹は[illegible]として[illegible]を出を

長い板敷きの廊下を傳つて幾人傷病が收容されてゐる部屋の近くに來たとき、前の廣場で、まだ使役に出ないインド兵傷病が草原に腰を下ろし、或ひは一組にかたまつて笑談し、或ひは[illegible]の練兵を樂しげ[illegible]同僚の號令で行つてゐる風景が眼についた

そこには日本の兵隊が二人、彼等を引率して[illegible]ために時間を待つてゐた。その一人は數名のインド兵に囲まれて手眞似で何か說明してゐた。インド兵は自分の兩手を拳に締めて、日本、インデアン」と叫ぶと、兵隊はランガポールが陷ちたらインデアンと日本は渦を呑んで喪ふんだ」と云つた。インド兵は拍手し、胸に手を當て、感涙し、大感激に感動した。もう一人は、インド兵と相撲を取つてゐた。最初のすさまじい勢ひとは力にも出はなず、インド兵は腰に手をかけるや否や跳ねとばされた。三人組いて負けた。その度に拍手と元氣な笑聲が起つた

『いゝ連隊ですね。この場面を寫眞に撮つて內地の人に見せたいですね』

と滿口は思はず云つた

『ふむ、映畫に撮影したいところだね。奴等は俘虜になつて、旨いめしを喰はして貰ふので、一生俘虜でゐたいと云つてゐるさうだ。愉快なこともあればあるものだね。皇軍ならでは、こんな不思議な[illegible]を見ることは出來まい』

と大泉軍曹は[illegible]かしながら云つた

やがて、英人[illegible]の居室の前に行つた。窓が開け放されてあつて室の中は一目に見えた。四名の白人は並んで長々と寢ころがつてゐたが、一人の[illegible]を見ると、慌てふためいて[illegible]手と見つめた。軍服はインド兵と同じやうな色だつたので、一番前にゐる兵隊は白人とは思へなかつた。色黑い眼に灼けて有色人種のやうだ。しかし眞中に寢てゐた一番若い兵隊が半身を起して此方を見たとき、その色の白さと青い眼が異様な印象を二人に與へた。[illegible]しいものが滿口の胸を打つた。それはまだ少年の面影を殘してゐない、かよわい稚さが、表情にもなよ〳〵した姿態にも現はれてゐたからである。一番端の白人はほゝゑんで擧手の敬禮をした。そこには兵隊といふよりは人を小馬鹿にしきつたやうな樣子があつた。滿口は、悲しみをユーモアに變へようと守る英人らしいゼスチュアをそこに發見した

『君の年はいくつだ』

と大泉軍曹は若い白人を指して質ねた

『十七歲』

と彼は答へた。何故か明るい色が急にその若い白人の表情に漲つた。まるで少女のやうな顏だつた。金髮が美しかつた。彼は[illegible]を飛び降りて、立つたまゝ急いで煙草の[illegible]を[illegible]ぎると、そこにスペードを[illegible]いて示した。そして二人の前に窓越しに立つて云つた

『トランプをもつてゐる。トランプを呉れ。遊ぼう』

『ふん、トランプ遊び[illegible]欲しいつて[illegible]』と大泉軍曹は英語で答へたが

『何だ[illegible]云つてやがんてえ…』と[illegible]つて滿口の表情を窺つた

『戰爭よりはいゝらしいんだ』

と大泉軍曹は歩きながら云つた

『日本人と大へんな違ひですね』

『トランプ遊び』

滿口は[illegible]を[illegible]めて手を[illegible]つた

みんなつ[illegible]に[illegible]の[illegible]走つた。若い白人は[illegible]を[illegible]た[illegible]、何か[illegible]要求するやうな表情は消えなかつた。[illegible]ような眼の光があつた

『貴方が[illegible]早くよこしにこんれと交際の兵隊はたつぷりの哀願を見せてゐつた』

『よし、傳へておく』

と大泉軍曹はきつぱり答へた

二人は踵を返して再び門前に出た。そして矢ぎの分哨に向つて急いだ

『あの態度はなつてゐないね。俘虜になつてまで、のんきにトランプ遊びを考へてゐるんだから、あきれる外はないよ。彼等は俘虜になつてほつとしたらしいんだな。

『日本人だつたら……』と大泉軍曹は素早く滿口の言葉を受取つた。『默つて端坐したきゝ考へてゐるだらう。少にも他國の俘虜になつて、恥かしめを受けながら生きようとは思つてゐないだらう。トランプ遊びなんて日本人には絕對考へられぬよ。貴方が空いても良事を哀願しないだらう。もつとそこに戰鬪なものがなくてはならん筈だ。ところが奴等の態度には人を小馬鹿にしたやうなところがある……』

『たしかにさうですね。日本人なら俘虜にならないでせう。俘虜になる前に一切の決算をつけるか、なつてもあんな態度ではゐないでせう。不敵なものがある筈です。とにかく凌辱される前に腹を切るところまで決心しますからね』

『全くだ』

と大泉軍曹は肩に力をこめて云つた

しかし、滿口の頭の中には、十七歲の英人俘虜の姿が深く刻みこまれてゐた。それは英軍の一つの惱みを象徵してゐるかのやうに思はれた。十七歲で兵隊となつておそらく最初の戰役に日本軍の俘虜になつてはは、祖國を遠大に信頼してゐた彼にとつては信じられぬ事實であつたに相違ない。この若い兵隊は敵軍であるにも拘はらず敵としての抵抗をここにも見せてゐなかつた故か、人間的な運命を滿口は感じたのだつた

『この少年には何の罪もないのだ』と滿口は心の中で呟いた。『しかし彼の態度の中に英國そのものゝ象徵を見ることが出來るのだ。一人の人間が民族を代表してゐる場合があるのだ。やはり彼も英國そのものなのだ。敵なのだ』と彼は更に思つた。が、憐憫の感情はます〳〵滿口をとらへてゆくのだつた

俘虜收容所より三哩も行かぬうちに一臺の自動車が後方の[illegible]を通り抜けて來た。そして俘虜收容所の前で待つた。その自動車は三度も往復してゐた。滿口は目で迎へ、急いで近つた。そこにはインド兵俘虜が乘せられてゐた

彼等は[illegible]から送られて來たのだつた。インド兵は荷物自動車の中に立つたまゝお互の肩に凭り合つてゐた。端の七、八名が一齊に滿口の方を振り向いたので、彼等の一瞬の表情は鋭しく滿口の網膜に焼きついた。彼等はもう何日も喰つたことがないかのやうに、ぎらゝと眼をとがらせてゐた。褐色の皮膚であつたが、青年らしいみづみづしさがあつた。しかし顏は疲れ、無精髭が生えて、長い疲勞が絕望的な陰の中にあつた。その[illegible]はめづらしい日本の兵隊を見るといふ興味に惹かれて動かされてゐるだけで、そこには諦めとも悲しみともつかぬ、茫漠たる無心の表情が漂つてゐた。なすがまゝに樣順に、どことも知れず、自動車にゆられて、彼等は運ばれてゆくのであつた

敵を知らぬ强大な皇軍の一員として、既に後方となつたケダー州の首都アロールスターの靜かな合歡木の並木路において、俘虜を滿載した輸送自動車を見送る氣持の中には、眞の現實を見極めえない錯覺が存してゐることを滿口は知つてゐた。それで滿口はまるで自己を反省するかのやうに、彼等の運命を自分のものとして考へてゐるのだつた

俘虜は兩手を擧げて武裝解除される瞬間から、[illegible]しい內部に流つてゐた血を凍らし、青春の情熱[illegible]木の[illegible]や、まだ現實のものとして感じ[illegible]いか數々の快樂を[illegible]ろしい[illegible]命を、瞬間にして、失つてしまつたのである。生命は心臟の鼓動があるにも拘はらず、どこかに吹飛び、腰は抜け、氣が遠くなり、死の恐怖がまぬかれぬものとして脅迫を積け、既に生ける屍、となつて、その魂を大自然の運命に委ねるよりなくなつて了つたのである。昨日までの自由と幸福の感覺はあとかたもなく消え、夢でなく現實に、逃れえぬ事實となつた。取り返しのつかぬ悔恨が、神を恨み、英軍の無力を責め、自分達の宿命的な民族的環境を呪ひ、揚句の果ては全部を忘却してしまふほど悩み疲れ、殆んど夢遊病者のやうな狀態になつてしまつた。彼等の瞳裡にひらめくものは、その間、どのやうな虐使を受けやうとも、堪へられぬものは只一つ、日本軍による最後の決定的な處置である。殆んど全部の者が、日本の大理想と聖戰の意義を知り得べくもない。俘虜といふ運命は戰爭に於つて、最も呪ふべき不幸な終止符であるために、それはとのやうに處置せらるゝやも判別できない無氣味さを含んでゐるゆゑに、一層殘酷な想像が彼等を苦しめたのであつ

滿口は、彼等の表情の中に、人間にとつて最も不幸な狀態を、諦めて堪へ忍ばうとする毅然たる眞面目さが現はれてゐることを見てとつた。それは人間共通の誠實によつて滿口を深く同情させた

『これが、日本人なら、理性を失はず毅然として、立派な態度を持ち續けることだらう……』と滿口は思つた

『ところが彼等は、意外な恩澤に浴することとなるのだ』

滿口はさう思ひ返すと、自ら微笑が唇にあふれて來た

彼等は日本軍の手に捕へられたが、投降ではなく、自由な集團生活を與へられてゐる。東亞の東亞人にするといふ驚くべき戰爭の意義を[illegible]せられ、インド獨立に關する判然たる意欲を呼び醒されることであらう。彼等は[illegible]の手に陷ちたのではなく、救世主の力强い腕に導かれたといふことを知るであらう。インドといふ祖國が、[illegible]りはげしい愛國的情熱を教へられることであらう。生の不思議さが、目覺めた理性に閃くであらう。土のやうに色褪せた唇はほゝゑみに變り、眼は烱々と輝いて青春の光をとりもどし、頰には[illegible]血が漲り、澎湃たる精力は希望の中に漲り溢れるであらう。死が生に一轉するばかりでなく、白人の桎梏より永遠に解放され、自由になつたことを感じ、永いインドの歷史が彼等を深い諦めの中に固着したその[illegible]な宗教的表情をみて〳〵うちに開放するであらう。彼等は俘虜收容所の門を這入るや否や、元氣な同胞の時々たる有樣を異樣な感慨の裡に見るであらう。彼等はいま滿口とすれ違つた瞬間まで、これ等一切を諒解しないのだ。その更生の宣告を受けるまで、彼等は人生最大の苦惱を體驗してゐる。それゆゑ新生の自覺はどれほど彼等を感動させることであらう

佛印は日本の誠實をみとめた。大東亞戰爭勃發と同時に、タイ國は日本軍に友好的進駐を快諾した。日本軍は蘭印、フィリピン、ビルマ、マレーの各戰線にわたつて偉大な戰果を收めつゝある。その目的は東洋を東洋人のものとするためであつた。まづ各地に地盤を固め永い歷史を支配して有色民族を搾取してゐた米英蘭を追放し、ビルマ、フィリピン、インド各地をその民族によつて獨立せしめ、永遠の平和を確立しようとする歷史的大偉業に着手しつゝあるのである。その端緒として、インド兵俘虜に對する日本軍の處置は、激烈な戰鬪のなかにあつて、既に世界の驚異的注視を浴びつゝ實現に移されてゐる。日本はインド兵を活用して次ぎの段階に對處した。世界最大の國家を敵とし、廣汎な地域にわたつて戰果を擴大しながら、なほインド獨立を支援しようとする日本の底力は、最早や[illegible]業としか思へぬものがあつた。それは現在、滿口の目前に證明されてゐるのだ

滿口は熱涙を感じた。戰友間の[illegible]など、この偉大な民族的感動の前には何の價値もなかつた。あまりに小さすぎた

『自分の世界觀に何か大きな[illegible]があつたらしい。目の向けどころを變へねばならぬ』

と滿口は考へた。何か新らしい思想が生れてくるやうな茫漠とした歡びがあつた

『まづ自分が皇軍の一員であることを誇りをもつて[illegible]よう。そして大威張りで生きていゝのだ』

彼はさう胸の中で云へると、大股に、昂然と頭を擡げて歩いていつた。太陽は既に東天の椰子林の上に現はれて灼熱の光を[illegible]からそゝぎ始めた。それは爽快な暑さであつた

（つゞく）

大東亞戰爭日誌

—八　月—

二十一日　●開戰初頭古跡せる英國キルハート諸島北端マキン島に對し八月一日未明　米合衆國陸軍攻　アメリカ兵約二百名上陸せるも同島わが守備隊は孤反擊により寡兵よくこれを全滅に臨遂

アジア歷史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

強いタイ國を生む次代の母

先生の講義に熱心に耳を傾けてゐる女生徒

在タイ國　杉山、尾崎陸特派員

一國の盛衰は、その國の若い世代、即ち男女青年男女の肩にかゝつてゐることはいふまでもありません。わが皇國が少國民教育制度を敷けるなどして皇國民たるの練成に萬全を期してゐるのもこの意味からですが、タイ國が立憲革命以來、國家青少年教育の急務を急いで來たのもうなづけることです。

こゝに紹介したのは近代的な教育設備を施した學校が數を增し、就學者も激增してゐるさうです。聽つた制服に包まれ、快く伸びた肢體に、躍進タイ國の將來が窺はれるではありませんか。

なほ、女學校四年から大學までの女生徒で一種の女子青年團が組織され、團員は一定期間、赤十字病院で看護訓練を受けてゐますが、これもイワナリといつて、先のタイ佛印國境紛爭の時には、イワナリ部隊が軍用電線に赴いて、目覺しい活躍をしてゐることを附記しておきませう

⇨佛教國たるこの學校には必ず佛像がまつられ、みな佛への信仰を中心に情操が養はれる

⇨一日の勉強を終へて、いそ〳〵と歸宅。遠く見える奉命記念塔も、女たちの健やかな成長を祈しなやうに…

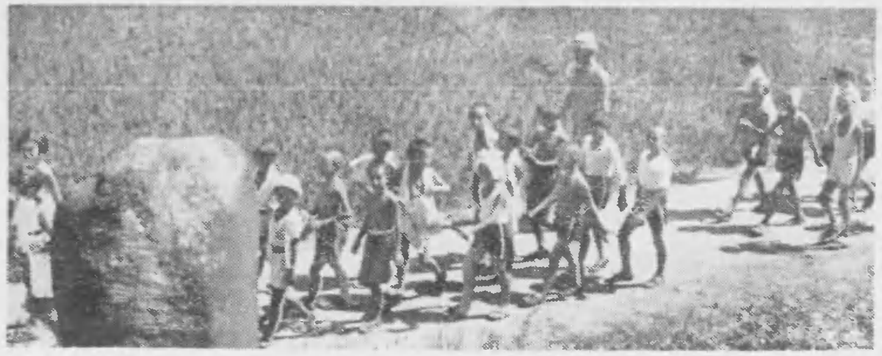
⇨逞しい四肢が炎熱の太陽に輝くやうに—常々と行軍する學生たち

⇨十歳の時間—これまでのタイ國民は一般に實業的な教育に終始してゐたので、大いに技術教育を施してゐる

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

體の弱い子供たちに夏季鍛錬の成績は

長崎市戸町國民學校



⇧ 鍛錬に出かけた戸町國民學校の虚弱児童

體の虚弱な児童たちに特別な保護を加へて、その健全な発達をはからうとする國民學校のいはゆる養護施設には、一般の兒童と一緒に授業をうけることの不適當な虚弱児童ばかりを集め、その學校のなかにそれ〴〵の級を編成してゐる養護學級と、主として夏季休暇を利用して虚弱兒童のために山間、海濱、温泉地などに開かれる養護聚落とも一つ虚弱兒童を一般の兒童と切り離して別に一つの學校に收容してゐる恒久的な養護學校との三つがありますが、なかでも養護聚落は最近著るしく普及され、暑熱を迎へてことしもまた全國に約千三、四百ケ所、海に山に高原に大自然の鍛錬道場を開きましたが、長崎市でもことし初めての試みとして、虚弱兒童のために市内戸町國民學校内に設置した分校舎にこの養護聚落を開き、市内二十七校の五、六年兒童のなかから虚弱な男女各五十名宛を選んで、夏季休暇中これらの虚弱兒童にふさはしい鍛錬生活を送らせました。

なだらかな起伏のまろいくつかの山に囲まれた海辺の小高い丘の上にあるこの小さな學校村には、七人の先生と一人のお醫者さんと養護婦さん二人がつききりで、毎朝六時起床から夜九時の就寝まで、自分の身の廻りの整頓をはじめ、國民儀禮、ラジオ體操、冷水摩擦、さては室内外の清掃と、養護をかねた鍛錬の日課はなか〳〵厳しいものでしたが、さうしたなかにも童話會や映画會、學芸會などの楽しい行事も折込まれて、精神の涵養にも十分に氣が配られ、二週間の生活を終へて歸つてきた子供たちの顔いきさまは、いつも身につけた規律正しい生活の習慣は、親御さんたちを大變に喜ばせました。

いま全國の養護聚落が社立つ風とともに一段落を告げたのを機會に、しめくゝりの意味をもかねて、これまでの養護聚落の成績はどうであつたか、文部省體育局衛生課長重田定正體育官に一般的なお話をうかがつてみることにいたしませう。

重田　の醫者は健康狀態をはかる尺度として、よく體重がどの位ふえたとか、身長がどの位伸びたとかいふことをいつたものですが、この夏季の養護聚落は、大抵二、三週間の短期間のものですから、體重にしても身長にしても目に見えた、數字的に測定のできるやうな効果が直ちに現はれるといふことは先づなく、むしろ場合によつては環境の變化などから一時體重が減るといふやうなことさへあり得るわけです。もつともなかには短期間の割合に體重がふえたといふやうな例もないではありませんが、養護聚落の効果はそれよりも、習慣的な方面にあるといはなければなりません。それではその効果は兒童たちの上にどういふふうに現はれるかといひますと、たとへば養護生活の結果、ふだん無の暮い兒童が平常の體温にかへる、紫外線の作用で新陳代謝が盛んになる、また皮膚に抵抗力ができて多がきても風邪をひかない。まういふやうな目に見えない方面で大きな期待をもたれるのです。また、教師が兒童たちと寝食をともにしてその生活を手をとつて訓練する結果、知らず〳〵の間にきまりといふものが兒童たちの身について、あとまでその生活が正しく明るく健康的になつてゆくといふことも見逃してはならない大きな收獲であるといへませう。

もちろん現在の養護聚落にはある程度問題し、改善しなければならない點が多々あります。大體からいへばこれまでは、虚弱兒童を養護するのに、とかく温室的な考へ方に支配されがちでした。養護聚落はとこまでも金持の保養のやうなものであつてはならない筈です。從つてこんごの經營に當つては、養護しながら鍛錬するといふ方向に指導してゆくことが大きな眼目でなければなりません。同時に、たゞ行きさへすれば誰でもよいといふやうな養護の本旨から外れた無企畫なやり方はきつぱりと改められなくてはならないでせう。しかしかうしたいろいろな點も、こんご回を重ねてゆくうちにはたんだん本來のねらひに歸つてゆくにちがひありません。

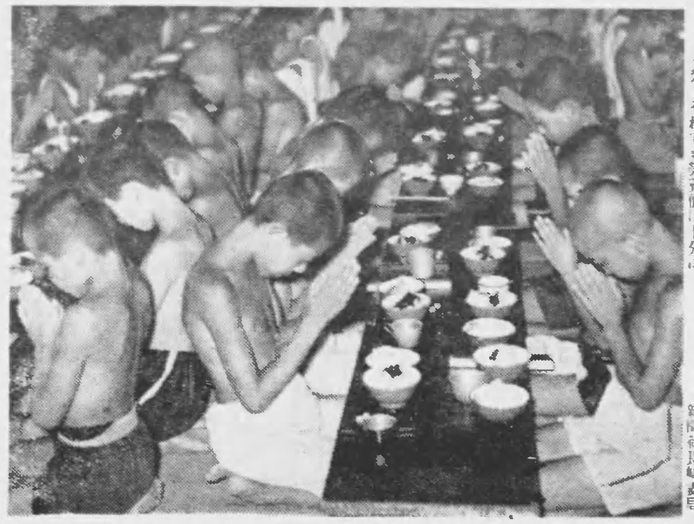
要するに夏季の養護聚落は短い期間ではありますが、相當の成績を收めてゐるわけです。從つてその効果が直ちに目に見えなくとも、親御さんたちは安心して先を楽しまれてよいのではないかと思ひます。なほ終りに一言つけ足したいことは、たとへかうした施設に參加しなくとも、養護聚落でそつてゐると同じやうな規律正しい健康生活をつみさへすれば、お家にゐてもどこにゐても養護聚落に行つたと同じやうな効果が得られるものであるといふことです。ことし養護聚落に參加しなかつた皆さんも、どうかこのことを念頭において下さい。そして弱い兒童に丈夫に、丈夫な兒童はいよ〳〵丈夫になるやうに絶えず鍛錬に心がけ、一人殘らず強い日本國民になつて戴きたいと思ひます

⇧ 何んといつても一番楽しい川遊び

⇧ 午睡のときはよい子供さんの夢を見て

⇧ 清新な朝の空気を吸ひながら一二、三、四、五、六、七、八

⇧ 朝礼が終つて一、二、三、四、五、六、七、八



⇧ お父さまお母さま餓きます！一二、三、四、五、六、七、八

写真　長崎市戸町日本新聞社長崎支局

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

夏休みの満洲建設

撮影　滿洲國通信社

⇦ 反満抗日の作業に進撃する隊員

トラクター現代フラウ作業に二部千早の曠野さいるるいろに開墾されてゆく ⇨

建國十周年の栄えある記念日を間近に控へて、滿洲國はまた一段と発展の歩みを続けてゐる。だが、滿洲國が大東亞共榮圏北方の重鎮として押しも押されもしない威容を整へるにはまだ滿洲開拓青少年義勇軍、滿洲建設勤労奉仕隊、興亜學生勤労報國隊等、われら若き世代の燃えるやうな建設の意欲と血のにじむ奉仕とまたこれに秘められてゐることを忘れてはならない。今夏も多數の若い學徒が建設の使命を担つて大陸に送られた。その内、第一陣の滿洲開拓建設農場に二ヶ月間、率仕の鍬を振つた東京、千葉、神奈川、その他一府十一縣から選抜された農業學校生徒二百名の汗の結晶を現地に訪ねてみた。

滿洲線を哈爾濱から四時間の行程で蘇家屯につく。さらに東方へ七キロ一路千里、目を遮るものもない曠野の中に蘇家屯特設農場がある。この地一帯は農業にかゝる適さないアルカリ地帶で、昭和十四年この農場が設置された目的も、如何にしてこのアルカリ土壌を征服して開拓と耕作地とを求めしめるかにある。だが、この農場は総勢廿名に過ぎない小家族なので、開墾、播種、收穫等一切が前期班、後期班に分れた率仕隊員の手で行はれるのであるが、この實際作業の未經驗者と取組んで、隊員の率仕と練成の生活が繰り展げられたのである

午前五時、起床ラッパで隊員一日の活動が幕を切つて落される。人員點呼、洗面が終ると全員農場に集合する。國旗掲揚、君ヶ代奉唱、皇祖皇宗の遥拝、朝の行事が済むと六時に朝食、朝食後自習で、七時半になると各班に分れて作業に就く。雨の日は作業の代りに自習である。午後は晴天であれば二時から五時半まで畑に出て作業を續け、六時半に夕食、入浴、自習、九時に消燈ラッパを合図に消燈就寝

生活は總て軍隊式であり、日課は正に鍛の訓練である。就寝前には互に對坐して敬禮、靴磨、御製奉誦、宮城遥拝、父母への挨拶等、殺風景な三十分を過すが、かくして率仕と行の實践を通じて、若い學徒の興亜魂は強烈に鍛へられてゆくのである

大陸の炎天と戦ふ若く逞しい身體、そして腐濁たる土に挑む『滿洲の土を刈つて大御田に化し奉らん』と誓る信念。滿洲國の健全な成長と共に、若い學徒、そして興亜の戦士も強く育くまれつゝあるのだ

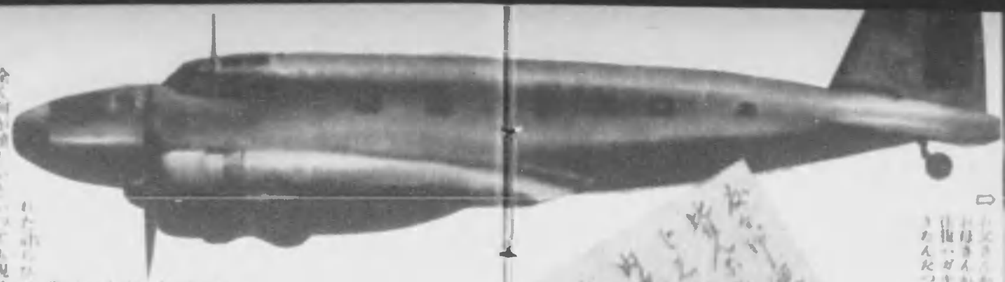
⇦ 畑班の除草作業

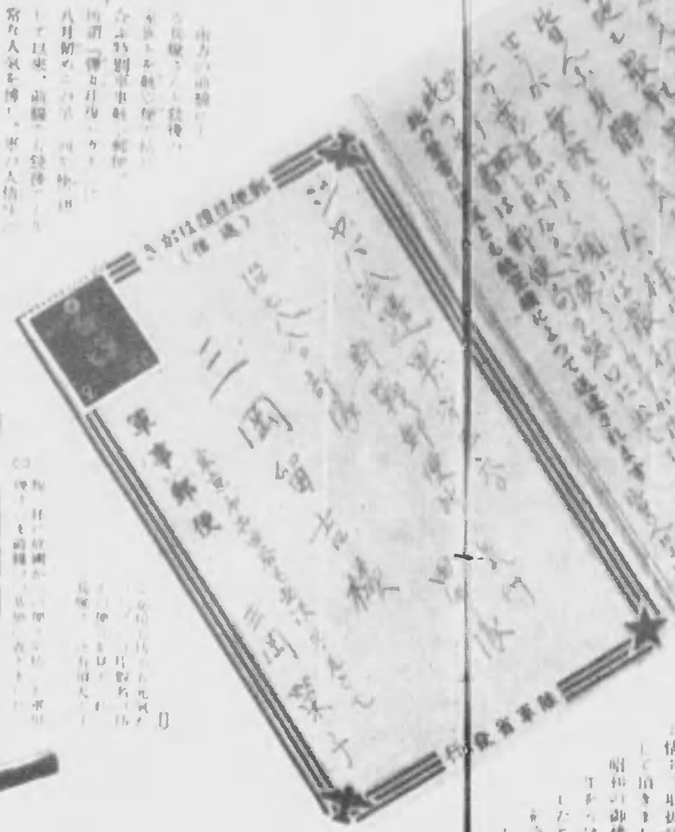
美草（ヤンソウ）の採取――これは唯一の大切な飼である

⇦ 今日一日の事業の疲労を癒へた。明日に備へて汗のにじんだ汚れ物を洗濯する隊員

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

戦線と銃後をかける 空飛ぶ慰問袋





⇦ 戦争のボロを蒐集、梱詰といふ一大整理被服が山のやうに持込まれもす

ミシン搗いで教へられたり

⇨ 縫の拔けたスボンを忽ち立派に蘇生し

⇨ ミシンが來たので、ミシンが來たので、ナニ私達で會場に繰ひませう

とても小さい切れっ端も無駄にしないでいろ〳〵と工夫を凝し活用することが、昔からの日本の主婦達がもつてゐた家庭經濟の持ちかたです。かうしたつましさこそ物資に恵まれることの少かつた日本の主婦達が自然に植ゑつけられてきた經濟觀念でした

この物を勿體ないと思ひ大切にするといふ習慣は今日、日本の家庭生活にとつて心强いことはなく、また大東亞戰を戰ひ�くためには絶對必要な暮し方といはねばなりません。今日衣料切符制が實施されて衣生活は確保されてはゐますが、この物を大切にして活用するといふ良い習慣を十分に發揮して、なほ一層衣料の消費節約の徹底をはからうではありませんか。

東京市の生活局補導課ではこの趣旨のもとに市民の戰時衣生活指導のために巡回被服修理班を組織してミシン百臺を動員、一班十臺位に指導員をつけて各町會單位に巡回させて古洋服や古着の更生や修理に當らせることになり、各家庭の主婦達から大歡迎を受けてゐます

着い指導員に修理のコツを敎はつてお婆さんもニコ〳〵と奉仕作業を

⇨ ホラ坊やのスボンがこんなによく直りましたよ

⇨ 奉仕隊員達の見せはしい、八、九臺のミシンを繰りを發揮、見ろ〳〵仕事の山が手際よく片づけられてゆく

空の軍神の生家を訪ねて

北海道旭川市　河崎　清

はるゝと歌碑の心にみたされた旅をつゞけて東京市青少年團軍神歌碑派遣團の一行七名は、八月三日空の軍神加藤建夫少將の地、北海道東旭川驛に到着、直ちに同驛にほど近い軍神の生家を訪れました

大雪山の麓、石狩川の畔、美しくまた雄大な自然のなかに、屯田兵として開拓の鍬をふるひ、警備の銃を執つた父の雄々しい魂と、優しく慈愛に富む母の氣性とをうけついで育くまれた少年時代の軍神を板葺の低い屯田兵屋に偲んで、一行はいまさらに深い感激に胸をふるはせ、眼に見えぬ數々の尊い資をお土產に軍神の家をあとにしました

軍神加藤建夫少將の生家をお訪ねして

軍神が少年時代に愛用した手袋

軍神のお父さまにあたる屯田兵次郎氏とかいろ話をうかゝひました

そしてから軍神の生家をスケッチしたり

復活の言葉

本誌からあなたは何を讀んでゆくか

1. こんど後藤丸は、ハワイ・ルート・ルチ號で帰國した人々はどこの國にわたる人々でゝあるか。（一頁）
2. 「新島に近いわが古巣下のマキン島に來兵が奇襲上陸を敢行したといひますが、それはチャンスでせう。神合せではうかゝれど目的を果さなかつた上陸はしたが、わが守備隊に撃退された。（一一頁）
3. 東京から朝南島までの直線距離は東京から大阪までの直線の何倍位あると思ひますか。（一五頁）
4. 北島方面作戰軍総指揮官はいを誰方でせうか。（一六頁）
5. タイ國に於ては女學校がありますか。女子は戸外へ出ることを出來るだけ禁じてゐる位ですから女學校はありません。外國に倣つて近く生れる豫定です。（一八頁）
6. アルゼンチン土壌は農業に肥料をとはいりません、本當ですか。（一九頁）
7. 戰地の夫から特別軍事航空郵便が參りました。まで遥事も航空便で行くようですが、この返信はどこへ投函したらいいのでせうか。（一九頁）
8. タイ國人の信仰してゐるのはヤッパリ佛教？　回教？　原始的な拜火教？（一二頁）
9. うちの子供は絵が嫌いで國民學校の先生のすゝめで夏休中林間學校へやりましたが、一向肥つて帰りませんでした。では効果がなかつたのですか。（一四頁）
10. 空襲に甘藷ハガキとは野菜宜傳の傳單ですか。（一八頁）

一閑十點としてあなたは何點でしたか。

大東亞戰爭漫畫日誌

石川　進介

米英一味に宣戰十三億を奮ふ

わが海軍機南方諸島空襲撃十重撃破

米英

リカッガンさんザ降

獄なりいたぶられに降さんザカ

ガンザ　ネルー等投獄ミル

ブッエジ

降伏しにきたれ二億三億

和機安の雲か晴に晴に雲の

アメリカ海軍は何故弱い

大軍神の金鵄勲

南　義郎

三杯目にはそつと出しの番茶と煮て、たゞ主人とでは責任を心がけて頂ふはず

約束

秋　玲二

『何をサボッとるんだッ！　我々は世界一周をさせてやるといふんで働つたんでせ。こんな所で死ねとはいつてゐないぞ』

勇々しくも哀々しく

小泉　紫郎

『あんた、閉塞つてもルーズヴェルトのためなんかに死んだやいやよ！』

護衛、勇猛、強襲し

杉　柾人

『看護婦、先づ酒と美味いものをうんと頂んでもらひたいのが、我々一同の願ひです』

『よし、わかつとる』

水兵氣質　疎開猛

『今までのそうな勇ましさ、死んでも男天はおぼつかねえ』

『全くだ』

常に備へるものは本

榎本映一

『青鳥よ白くよ出ましたら御馬鹿』

『ミーリスーツンスーツ』

『ファンレブンイ』

食糧帳

後藤丸は帰つてきた。後藤丸にとつては、去る六月二十四日夜半、遽々たる燈火に白十字を浮き出して帰出した間じ深閑深閨にとんどは白十字を電光に輝かせて二ケ月振りに帰着した

寫眞通報（毎週發行）

昭和十七年九月一日印刷納行

編輯兼發行人　情報局

東京市麹町區永田町一ノ一

印刷者　内閣印刷局

東京市麹町區紀尾井町

定價

一部十錢（郵料一錢）

（外地郵送に依る場合は郵料共一部十九錢）

▲增刊紀元二千六百年の方は一部十錢（郵料一錢）の割合を以て前金を添へ御申込下さい

▲特大號の場合は其の都度御申込金より差額を申受けます

申込所

全國各地官報販賣所

書店・雜誌販賣店

新聞販賣店

寫眞材料店

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

籤(くじ)を樂しみながら貯金が出來る

だんがんきつて

一枚 二円

第四回賣出

8日→15日

抽籤日

21日

當籤割合

[illegible]

割増金

[illegible]

抽籤の濟んだ切手は五枚以上纏めて郵便局へお差出しの上、特別据置貯金證書と引換へて下さい。

賣切れぬうちにお早く郵便局へ

内閣印刷局印刷發行

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/